



新人看護師基礎研修 一泊入院患者体験



3階病棟 坂本

患者一泊入院体験研修に参加しました。ニースプリントを装着し、移動の際は松葉杖を使用して過ごしました。この経験を通して、身体が制限された中で生活する辛さや入院している方の気持ちなど様々な学びを得る事ができました。入院を経験し、慣れない環境や一人であることに不安や孤独感を感じました。また、身体を制限されることで、身の回りのことをしてもらうことがとても申し訳なかったです。その中で、看護師さんの笑顔や優しい声掛けなどの配慮がとても嬉しくて安心することができました。

今回の経験で、患者さんの立場で考えることや日々の関わりの大切さを実感しました。患者さんの気持ちを出表できる環境作りや一人一人に寄り添うことで、安心した入院生活を送って頂けるように関わりたいと思いました。



<ニースプリント装着>



4階東病棟 斎藤

私は頸椎捻挫の設定で、フィラデルフィアを装着し過ごしました。ベッドで横になったり、本を読んだり、食事や会話の時など、フィラデルフィアが邪魔をして思うように動かすことができませんでした。この時に制限なく動かせるありがたさを痛感しました。今回は自分で動くことが許されておらず、トイレ時はナースコールを押さなければならず自分で動くことができないもどかしさを感じる半面、自分のコールを対応してくれてとても嬉しかったです。コール対応した看護師にありがとうと言う人が多いのも分かる気がしました。

この体験を通して、患者さんという立場になって初めて気づいたことがたくさんありました。その気づきを今後の業務に活かしていきたいと思います。



<フィラデルフィア装着>



4階西病棟 田平

私は、脳梗塞の右半身麻痺で三角巾固定をした状態で4階東病棟へ入院しました。患者体験を行っていく中で、ナースコールが押しにくいことや、ベッド上安静による退屈さや苦痛を体験しました。治療のために、様々な我慢を強いる場面が多くあり、今回自分自身で行う事が出来ないもどかしさを感じ、自分で出来ると思ったり、忙しそうだし自分でしてみようと考えてしまう事もありました。この気持ちがナースコールを押さずに行動してしまう事に繋がるのではと思いました。

この体験をいかし、こまめな訪室やケア時には患者さん一人ひとりと真摯に向き合い、患者の思いや訴えを傾聴し、安心して入院生活が送れるよう看護を提供出来るように関わりを持っていきたいと思いました。



<三角巾装着>



2024年度 部署目標



外 来 : 「患者の思いを共有し、安心・安全な外来看護を提供できる」

『断らない医療を実践し、紹介患者と救急を中心とする地域密着型病院をめざす』を掲げ、急性期医療の入口である外来・救急外来は、安心・安全な外来を提供したいと考えました。IC後の反応を確認し記録に残す（患者の思いを共有）ことやカンファレンス（倫理やインシデント、外来患者の問題点等）を通して、安心、安全な外来を作りたい。また、スキルを磨き、中核医療のニーズに応えられる人材育成にも力を入れます。

手 術 室 : 「安全・安心な手術看護の提供」

今年度は、ロボティックアームを用いた人工関節手術支援システムが導入されるとともに、定期手術に加え、緊急手術も受け入れることから、これらに対応する高い実践スキルとそれを支える学習意欲、チームで活躍できるコミュニケーション能力が必要となります。そのために、「自己研鑽とスキルアップ」「働きやすい職場作り」「円滑なコミュニケーション」を軸に看護の質を向上し、安全な手術室看護の提供を行いたいと思います。

3 階 病 棟 : 「多職種連携を行い、良質な医療を提供する」

定期的な学習による専門性の向上・ホスピタリティ精神の向上・チーム医療の推進・包括支援システムを利用した継続看護の提供としました。昨年度は基準手順を逸脱したインシデントが多くありましたので、今年度は各委員会からマニュアル周知、勉強会開催や各個人の力を集結し病棟スタッフの底上げをし、改善に努めていきたいです。地域に選ばれる急性期病棟として、多職種と連携し本人・ご家族が入院してよかったと思える病棟を目指していきたいと思っています。

4 階東 病 棟 : 「患者の生活を考えるチーム医療の実践」

2023年度は、「看護の実践」を目標にし、スタッフの看護力を高めることができたと考えます。2024年度は患者は「生活者」であり、看護だけでなく多職種と連携してチームの力で在宅や地域の病院・施設へ引継ぎ、安心・安全に過ごすことができるように医療提供ができるようにしていきたいと考え、そのために小集団で「専門的知識の向上」「多職種連携」「カンファレンスの充実」の3本柱を立て実践できるようにしていこうと思います。

4 階 西 病 棟 : 「チーム医療の推進」～多職種カンファレンスの定着と看護ケアの充実～

教育チーム、カンファレンスチーム、セル看護チーム、補助者チームの4チームに分け、年間計画を立案し活動を計画しています。

昨年度カンファレンスの開催を定期的に行うことができ、定着しつつある中で、今年度はその実施したカンファレンスの内容を看護ケアに活かせるように取り組みたいと考えています。

回復期リハビリテーション病棟 : 「安全・安心・信頼のおける医療を提供する」

今年度は、回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰの取得に向け、より重症度の高い患者さんが増える為、更なる多職種連携が重要となってきます。セル看護での寄り添ったケアの充実と、個々のリハビリ看護実践能力を高めながら、患者さんの回復を目指します。

HCU病棟 : 「安心・安全なチーム医療の提供」～多職種協働、個別性の充実～

HCU病棟の運営特徴として、急性期医療を担い、さらに高度救急治療を要する患者を収容します。専門的治療を行ったうえで、一般病棟での継続治療を目指しています。

一番に安心・安全な医療の提供を優先し、高度の治療を要する中でも、患者・家族の気持ちへ寄り添い、多職種が協働する。そして、患者・家族の意向を反映し、個別性の充実を図ることを目標としました。

P F M : 「入退院支援看護師としての専門性を高め、多職種連携・協働の力を発揮する！」

令和6年度は診療報酬、介護報酬、障害福祉サービス等のトリプル改訂の年です。当院が急性期病院としての役割を担いながら、地域完結型医療を推進するためには、早期の入退院支援介入による問題解決が重要です。入退院支援看護師として知識・技術を習得し、専門性を発揮することで、院内・院外との多職種連携・協働ができるように取り組みたいと思います。



☆ラダーⅠ研修「事例検討」(6/6・6/19)

日々の業務を振り返ると、私の看護過程は正しくステップを踏んでおらず、《全体像を書く》《問題リストの作成》が抜けていたように感じました。必要最低限の情報収集を行い、テンプレートのような身体的に特化したアセスメントを行い、看護計画を立案していました。今回の研修でもグループワークで行った全体像を捉えるための情報収集の方法で、日々の業務で、精神面・社会面を疎かにしていたことが分かりました。看護過程のステップを正しく理解し、全人的に1人の人間であることを念頭に置き、患者に関心を持って関わる事が重要である事を再認識しました。



☆ラダーⅡ研修「褥瘡予防対策とケア」(6/12・6/17)

講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 外来主任 福山



今回の研修では、褥瘡対策に関する治療計画書の評価方法を再確認し、入院時に正しく評価を行い、必要なケアを看護計画にも反映させていく必要があると感じました。また、褥瘡予防では、普段何気なく行っているベッドギャッジアップやオムツ交換などの正しい方法や、当院で使用している被覆材や褥瘡の薬剤を学びました。学んだ知識を活かして褥瘡予防策とケアに努めていきます。

☆ラダーⅢ研修「褥瘡予防対策とケア」(5/15・5/28)

講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 外来主任 福山

当院の褥瘡発生率について全国平均と比べやや高い傾向があることを知りました。救急外来でも検査待ちなどでストレッチャーに長時間待たせてしまうこともあり、除圧などを行うことで皮膚トラブル予防に努めていきたいです。病棟看護師とは違い、長期的に褥瘡予防・対策は行う事はできませんが、外来や救急外来でまず来られた患者の初期評価を行えるのは私たち外来看護師の役目であり、皮膚トラブルの発見・初期対応をすることにより病棟での引き続きケアに繋がれると改めて実感するきっかけとなりました。今回の研修で学んだことを一つ一つ実践で活かせるようにしていきたいです。



☆看護補助者研修「看護補助者の役割と医療制度について」(5/14・5/24・5/30)

講師：認定看護管理者 副看護部長 久留須



今回の研修では、看護補助者としての役割や当院の理念・病床について学びました。看護補助者とは、看護の専門的判断を要しない看護の周辺業務を実施する職業であり、看護補助者としての役割及び業務範囲を守る事の大切さを再認識出来ました。グループワークでは、周りを観察し相手がどうしたいのか、何が必要なのかを相手の立場になって考えること、仕事をする上でも円滑に連携が取れるという事を学びました。今回の学びを忘れず、看護補助者としての役割を果たしたいと思います。



看護協会主催：看護補助者の活用推進のための看護管理者研修

3階病棟主任 佐藤

今回、看護補助者の活用推進のための看護管理者研修を受講しました。

医師の業務改善をするに当たり、タスクシフト・シェアが推進・整備され、看護協会も看護要員のチームとして、補助者の活用を推進しています。

研修を受け、看護補助者の役割・業務内容を理解し、より患者が安心・安全に看護介入がされるよう、指示・指導・教育していくことの重要性を学びました。グループワークで、他施設の管理者から、看護補助者にも主任の役割を担って貰い、日々の業務でリーダーを任せ、看護師リーダーへ「報・連・相」を行い、看護補助者が仕事を任されているというモチベーションや、看護師リーダーと業務の進捗状況や、不安に思ったことをすぐに共有することで、依頼した看護師への教育にも繋がったそうです。今回の学びを元に、病棟内での看護補助者の活用の仕方について今一度共有し、スタッフが安心して、患者の安全を守れるよう指導していきたいです。



4階西病棟 山下

最近のマイブームは夏野菜を育てることです。両親、祖父母とビニールハウスを建て、その中でトマトやオクラなどを育てています。また、竹で囲いを作って網を這わせ、ゴーヤやキュウリなどの成長を日々楽しみにしています。キュウリやトマトの出来初めは小さくてかわいいなと癒されています。しかし、害虫や獣の被害もあるため、家族みんなで対策を試行錯誤し、少しずつ収穫も出来ています。これからもみんなで協力して美味しく食べられるように育てていきたいです。



<編集後記>

コロナも増加し、熱中症も心配になるこの頃、体調管理と感染対策をしっかり行い、乗り切っていきましょう！

(轟原)